

ふるさと学習資料

名鉄広見線「100年のあゆみ」

2020年に、御嵩開通100周年を迎える名鉄広見線。

一世紀の歴史を紐解くと、地域の生活に根差した鉄道であるとともに、日本の発展に寄与しつつも、それぞれの時代の流れに変化を求められてきた鉄道であることが見えてくる。

また、一世紀の鉄路を支えてきた建造物やその遺構、100年前の車輛が現存していることも、御嵩町にとって、かけがえのない財産である。

これまでの歴史を振り返り、1世紀にわたる出来事を年表にまとめることで、この御嵩町に鉄道の音が響き続ける「次の100年」に向けて、知恵を出し合っていきたい。

— 年月日 —	— 出来事 —
1870.	明治 3年 東京と京都を結ぶ幹線鉄道の調査が、東海道から始まる。
1871.	明治 4年 東京と京都を結ぶ幹線鉄道の調査が、中山道でも始まる。
1883. 8.	明治 16年 中山道幹線の建設が内定する。
1886. 7. 13	明治 19年 幹線を中山道から東海道に変更することが閣議で決まる。 ・長浜から岐阜までの建設が進んだところで中止となり、東海道線の一部となる ・明治政府の当初計画「中山道幹線」が実現していれば、東美鉄道や太多線が、東京と京都を結ぶ幹線の一部となっていたと考えられる。
1900. 7. 25	明治 33年 中央線 名古屋—多治見間 開通
1912. 7.	大正 元年 御嵩—多治見間 18.5kmの普通鉄道敷設を申請（資本金45万円、上之郷村の平井信四郎ら50名が発起人。）
1915. 3. 20	大正 4年 東濃鉄道株式会社設立

1916. 10. 18	大正5年	工事方法の変更（線路幅の変更等）を申請し、許可を得る。 資本金は、35万円に減額。
1917. 2. 18	大正6年	工事に着工する。
1918. 2	大正7年	大日本軌道鉄工部（後の雨宮製作所）で、2輛の蒸気機関車「A形1、A形2」（後の「ケ90、ケ91」）が製造される。 ・100年以上経った今も、2輛とも静態保存で現存する。
12. 15		新多治見—広見間 11.8kmが、線路幅762mmで、完成。
12. 28		新多治見—広見間 11.8kmの営業開始。 所要時間は、約45分。停車場は、新多治見、小泉、姫、広見の4駅。
1919. 5. 13	大正8年	大藪口 停車場 開設。
5		広見—御嵩間 の工事着手。
1920. 1. 19	大正9年	根本 停車場 開設。
8. 21		広見—御嵩（現在の御嵩口）間 6.8km 開通。 広見—御嵩間の停車場は、伏見口。 新多治見—御嵩間の所要時間は、約1時間10分。 （現在は、約35分）
1925. 4. 24	大正14年	名古屋鉄道が、犬山口—今渡間 12.4kmに路線を延ばし、今渡線が開通する。
1926. 4	大正15年	多治見—美濃太田間 の鉄道建設が決まる。
9. 10		東美鉄道株式会社 設立。（社長：平井信四郎） 大同電力（のちの関西電力）、名古屋鉄道、東濃鉄道が40万円ずつ出資。
9. 25		鉄道国有法により、広見—新多治見間が、65万8100円で政府に買収され、太多線となる。 2輛の蒸気機関車「A形1、A形2」は、「ケ90、ケ91」となる。（「ケ」は軽便鉄道のケ。）

1928. 10. 1	昭和 3年	前波駅 顔戸駅 開設。 線路幅を762mmから1067mmに広げ、 600ボルトの電圧で電化。 太多線広見駅につなぐ路線に変更。
		東美鉄道営業開始。 広見駅 開設。 太多線も1067mmに改軌。美濃太田へ延長。
12. 7		学校前駅 開設。
1929. 1. 22	昭和4年	名鉄今渡線が、今渡から広見まで延長。広見線と改称される。
1930. 2. 16	昭和5年	広見駅の隣に、新広見駅 開設（国鉄との共同使用終了）
4. 30		伏見口ー兼山間 開通。 東伏見口駅 兼山口駅 城門駅 開設。 錦織への延長は、大同電力の発電所建設の延期のため中止となる。
5.		1928年まで活躍した2輛の蒸気機関車「ケ90、ケ91」が廃車となり、国鉄浜松工場で保管される。
10. 1		兼山ー八百津間 開通。 中野駅（無人駅） 伊岐津志駅 開設
1935. 3.	昭和 10年	「ケ90」が国鉄名古屋鉄道局の教習所（後の国鉄中部鉄道学園、JR東海社員研修センター）に教材として展示される。
1943. 3. 1	昭和 18年	東美鉄道は名古屋鉄道と合併し、名古屋鉄道東美線となる。
10		日本発送電により、八百津から丸山ダム工事現場までの丸山水力専用鉄道に着工するが、太平洋戦争のため、翌年工事中止。
1946. 3. 1	昭和 21年	広見線の起点が、犬山口から犬山に変更される。

1948. 5. 16	昭和23年	東美線 新広見—御嵩間を 広見線に編入。 伏見口—八百津間は 八百津線となる。
1951. 10.	昭和26年	「ケ91」が東京の交通博物館で展示される。
11		丸山水力専用鉄道の工事が、関西電力により再開される。
1952. 3	昭和27年	丸山水力専用鉄道が、八百津—錦織間で開通。 丸山ダムの建設資材が、広見線、八百津線を経由して運ばれる。
3. 25		顔戸駅 無人化される。
4. 1		御嵩駅—御嵩口駅間 700mが開通。今までの御嵩駅は御嵩口駅に改称される。
1953. 7	昭和28年	丸山水力専用鉄道が、錦織—丸山発電所間で開通。
1954. 5. 31	昭和29年	丸山ダムの完成により、丸山水力専用鉄道が廃止される。廃止された線路跡は、県道381号線や358号線などになり、今でも遺構が多く残されている。
1957. 6	昭和32年	東京の交通博物館で展示されていた「ケ91」が、浜松工場に返却される。 現在は、JR東海浜松工場の旧引き込み線跡地に作られた「堀留ポップ道」に展示されている。
1963. 7. 16	昭和38年	兼山口駅 無人化される。
10. 1		御嵩口駅 無人化される。
1965. 3. 21	昭和40年	電圧を600ボルトから1500ボルトに昇圧。 名古屋・岐阜方面への直通列車が運行開始。
1969. 4. 5	昭和44年	前波駅 東伏見口駅 城門駅 伊岐津志駅 廃止。
11. 6		兼山駅 無人化される。
1977. 3. 25	昭和52年	顔戸駅 無人化される。
1982. 4. 1	昭和57年	可児市市制施行。 次の2駅の駅名を改称。 新広見 → 新可児 伏見口 → 明智
1984. 9. 23	昭和59年	八百津線が非電化路線となり、気動車化（レールバス）される。

1985	昭和60年	広見線の新可児―御嵩間にも、レールバスが走る。
2001. 9. 30	平成13年	八百津線 廃止される。
2003. 3. 27	平成15年	犬山、名古屋方面への直通列車の多くが廃止される。
2005. 1. 29	平成17年	学校前駅 廃止される。
2008. 5. 20	平成20年	名鉄広見線対策協議会が設立される。
6. 29		新可児―御嵩間で ワンマン運転が開始される。 御嵩駅、明智駅 無人化される。
2009. 5. 16	平成21年	7000系パノラマカーの引退を記念し、「ありがとうパノラマカー」記念イベントが開催され、御嵩駅まで、パノラマカーが臨時列車として入線する。
12. 3		名鉄広見線活性化計画を策定。
2010. 2. 11	平成22年	リニア・鉄道館に展示のため、「ケ90」がJR東海社員研修センターから搬出される。
3. 29		従来の対策協議会が、名鉄広見線活性化協議会に名称変更
2011. 3. 14	平成23年	リニア・鉄道館開館。「ケ90」が公開。 令和元年からは、N700系新幹線（2005年製造）の傍らで展示されている。
2020. 8. 21	令和2年	御嵩―新可児間 開通100周年を迎える。

参考文献

- 「鉄道ファン No.272 昭和58年12月号」 交友社
「みたけの鉄道90年史」 御嵩町教育委員会・中山道みたけ館
「岐阜県の鉄道」 清水 武 著 アルファベータブックス
「名古屋鉄道 今昔」 徳田 耕一 著 交通新聞社
「鉄道まるっと切り抜き帳」 中日新聞